

吸実性カメムシ情報第1号（ダイズ）

平成22年9月30日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

1 発生状況

9月下旬の巡回調査（県内10ほ場）の結果、ダイズにおけるミナミアオカメムシ（図1、2）やアオクサカメムシなどの吸実性カメムシ類の100株あたりの寄生虫数は10.3頭（平年2.0頭）で、昨年に次いで過去10年で2番目に多くなっています（図3）。また、9月24日発表の1か月予報では、気温が高い確率が60%と予想されています。今後も発生に好適な条件が続くと思われるため注意が必要です。



図1 ミナミアオカメムシ成虫



図2 ミナミアオカメムシ幼虫

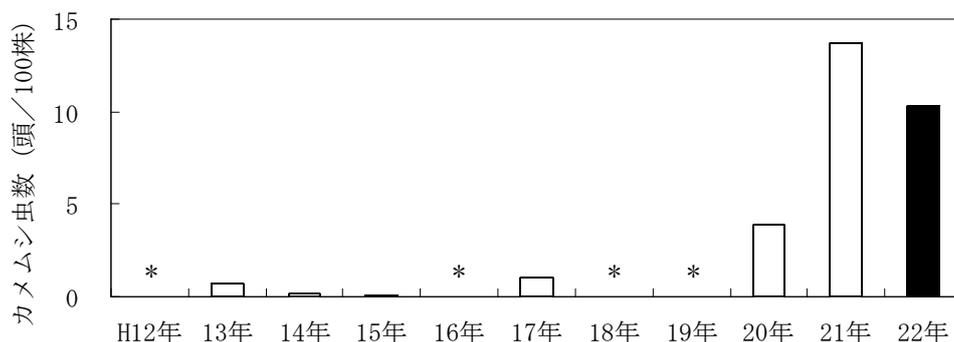


図3 ダイズにおける吸実性カメムシ類の寄生虫数
（平成12～22年，9月下旬調査，10ほ場平均，*：0頭）

2 防除対策

水稻収穫後、周辺のダイズほ場への飛来が懸念されるので、ほ場をこまめに見回り、ほ場内で吸実性カメムシ類を確認したら、下表を参考に、薬剤による防除を実施し、その後も発生が多い場合は7～10日後に再度防除を実施してください。特に、幼莢期から子実肥大期にカメムシに加害されると、稔実不良の原因となるので、この時期に防除の重点をおきましょう。また、散布の際にはラベルの記載内容を確認し、使用基準を厳守してください。

ダイズにおけるカメムシ類に登録のある主な薬剤

薬剤名	系統
スミチオン乳剤	有機リン
キラップフロアブル	フェニルピラゾール
ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド
アルバリン/スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド